

## 北海道がつないでいく、てん菜の歴史。

砂糖の原料となるてん菜は、輪作を基本とする北海道の畑作農業にとって欠かせない作物です。女満別種子工場ではこのてん菜の品種開発に取り組み、1964年認定の「ポリラーベ」をはじめとするさまざまな品種を普及させてきました。近年の気象条件を踏まえ、褐斑病などの病害抵抗性を有する品種の開発に取り組み、2012年には優良品種「ラテール」が誕生しました。



## 北海道の米で育った「う米豚」。

豚肉ブランドは日本に数百あるといわれています。そこで、ほかとの差別化を目指したのが「う米豚」。飼料の約15%に北海道産飼料米を使い、飼料中のアミノ酸の量をコントロールすることによって、見た目にわかるタンパク質が入った肉を目指して生産しています。厳しい肉質基準が設けられ、合格となるのは約6割。見た目に食欲をそそり「あさりして食べやすい」と好評です。



## 想いをかたちに。新品種は味自慢ぞろい。

北海道のかぼちゃは9月が収穫のピーク。需要の高い冬至(12月)には国産のものはほとんど流通せず、メキシコなどからの輸入品が市場に出回るといった状態が長く続いています。「冬至においしいかぼちゃが食べたい」という消費者の想いと、「冬至においしいかぼちゃを届けたい」という生産者の想いをようやくかなえたのは、「あまほく」という品種です。2007年から「りょうおもい」のブランド名をつけて普及に努めています。ほかの味自慢をあげると、玉ねぎの「真白」。薄皮が真っ白で、辛みが少なく、ほんのり甘さも感じられます。生食の際に辛みが敬遠されることもあった玉ねぎですが、その課題が解決されました。



## 北海道産野菜の加工への取り組み。

北海道産野菜の付加価値を高める加工食品の研究・開発も行っています。とくに冷凍食品は種類が多く、馬鈴しょであれば、用途に合わせてフレンチフライ、カット、マッシュしたものを取り揃えており、玉ねぎ、スイートコーン、豆類などの冷凍食品も多数揃えています。これからも新しい北海道産野菜の加工を目指し、既存品と組み合わせ合わせた商品の開発にも取り組んでいきます。



## 酪農畜産の未来のために、人づくり。

常呂郡訓子府町にあるホクレン畜産技術実証センターでは、乳用牛や自給飼料の生産を行いつつ、さまざまな試験ができる施設を整えています。ここでは、1968年以来、研修生を受け入れ、主に酪農家の後継者育成を手助けしてきました。定員は毎年5名、研修期間は1年間。現場実習と座学で実践的な技術を身につけた修了生が、明日の酪農畜産を担います。



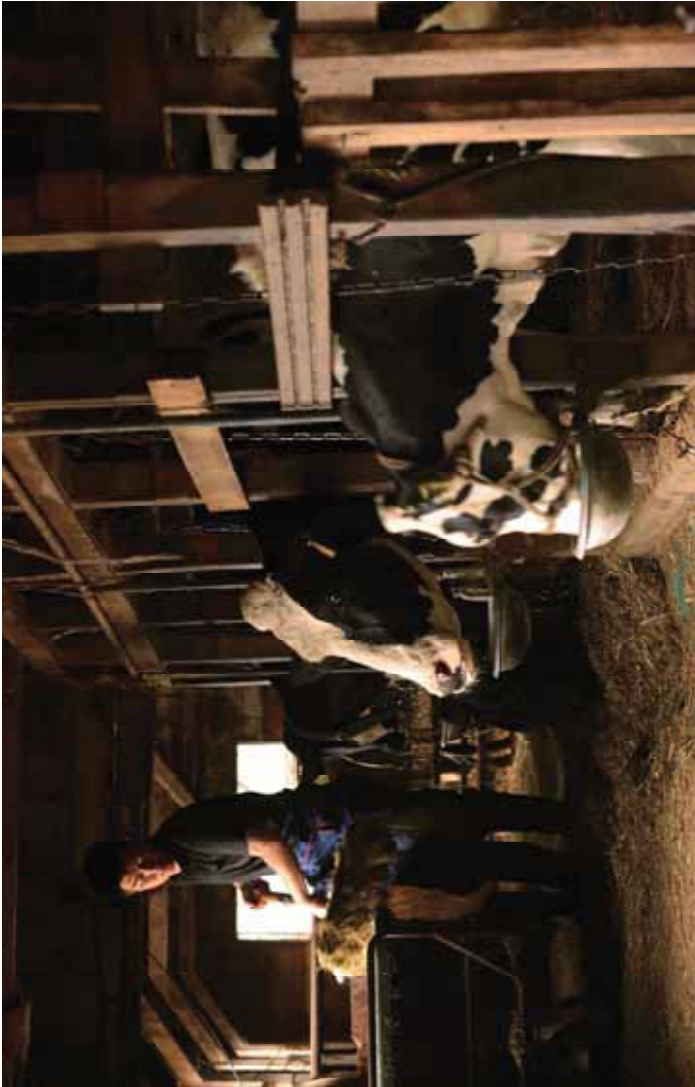
## 消費者も生産者も理解しているホクレンに期待。

JA青年部は若手農業者が集まって、ホクレンと連携しながら自分たちの技術の向上に努めています。また、消費者の農業への理解の促進もはかっており、活動のひとつとして、道内各地の青年部は地元の小学校で学級農園の指導を行う「子供農業体験」を実施しています。その活動のなかで、生かすこと、食べることに感謝するだけでなく、多面的な機能があると思えます。その価値観を伝えていくのが今後の課題といえるでしょう。ホクレンは農畜産物を集約的に扱って販売するだけでなく、販促イベントなどで北海道のあたたかさをとどけてくれていて、ありがたいと思っています。今後は北海道農業の価値観をさらに広めていくことを期待しています。



JA北海道青年部協議会 会長/JAあむろ  
黒田 栄継さん

voice.1



# ささえる

生産者が安定的に増産できるよう、  
北海道の農業が持続していくように、  
ホクレンは多方面から支援をしていきます。  
また、食の安全・安心をしっかりと守り、  
日本の食を力強くわたせることに力を尽くしていきます。

## 生産者の営農に必要な資材を、 世界から安定供給。

営農に必要な各種生産資材の安定供給を図ることはホクレンの重要な責務です。肥料や飼料のように、原料の多くを輸入に依存しているものもあり、それらの安定的な確保は不可欠です。全体の約8割を輸入に依存している肥料では、従来から北米を中心に原料の輸入を行っていますが、品質を確認したうえで中国をはじめ新たな国からの導入を図るなど、将来にわたって原料をしっかりと確保するため、仕入先の多元化に取り組んでいます。



酪農畜産で必要な飼料についても同様です。トウモロコシは2008年には約98%をアメリカから輸入していましたが、バイオエタノールに向けた需要が拡大して、価格が高騰しました。そのため、ブラジルやウクライナなどから輸入を行い、産地多元化を進めています。また、輸入飼料の値上がりを受け、生産者・JA・ホクレンが一体となって「草地植生改善プロジェクト」を2010年からスタート。質の良い自給飼料(牧草)を増やし、コスト低減を目指しています。

